



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 30

PROFILE

長崎県出身。1998年に『つつみ込むように…』でデビュー。2010年に一般財団法人mufef設立に参加し、音楽を通じた社会貢献活動を展開。同年に「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」名誉大使を務める。現在はアフリカ支援や生物多様性の普及啓発活動に取り組んでいる。「第5回アフリカ開発会議(TICAD V)」の開催に合わせて、JICA-TICAD V オフィシャルサポーターに就任。

子どものころから音楽がそばにあり、自然とソウルミュージックやR&Bの魅力に引き込まれていきました。アフリカに興味を持ち始めたのは、そこに私が好きな音楽のルーツがあると知ってから。あの生命力あふれるリズムが、どのような土地で、どのような人によって生み出されているのか、想像するだけでわくわくしました。そしてその後、アフリカの貧困解決のために作られた「We Are the World」などの楽曲を通して、現地の人々が直面する貧困問題を知ったのです。

初めてアフリカの大地を踏んだのは今から5年前、東アフリカのケニアでした。首都ナイロビにあるアフリカ最大のスラムとも言われるキベラスラムを訪問した時の衝撃は、今でも鮮明に覚えています。辺り一面にごみが散らばり、人々が大変な状況の中にいるのが分かりました。けれど、力強く生きる彼らの笑顔、文化や音楽、自然といった素晴らしいものにもたくさん出会い、支援という形よりも、そこに生きる人々と“共に生きる”ことができればと思います、多くの方々



© mufef

アフリカを感じる

アーティスト MISIA

と手を携え、アフリカに関する活動を始めました。

昨年の大みそかには、ナミビアのナミブ砂漠という、とても美しい場所で歌う機会をいただきました。世界最古と言われるその砂漠は、テレビの映像からも伝わったと思いますが、本当に幻想的な空間でした。アフリカには54の国があり、私はその数だけ素敵なものがあると感じています。あの日の中継を通じて、日本で一人でも多くの方に、アフリカの魅力を伝えることができたらと願っています。

今年始めに訪問したセネガルでは、日本の協力で建設された給水塔を視察しました。新たな水源を得たことで、不衛生な水を原因とした病気は減り、水くみの労働から解放された子どもたちは学校に、家庭の女性たちは余った時間で識字教室に通えるようになったそうです。また、畑仕事をする時間も増えて収入を得られるようになったと聞き、やはり問題はすべて関係しているのだと感じました。

アフリカには、教育や環境、紛争などまだまだ多くの課題がありますが、その根底には常に貧困問題があるのではないかと考えています。それが解決できれば、世界の平和と人々の幸せにつながるのではないのでしょうか。

アフリカは決して遠い存在ではありません。私たちは共に支え合って生きている。だからこそ、一人一人にできることがあるはず。アフリカでの出会いを通じて、人のつながりの強さ、家族を大切に作る心など、気付かされたことは数えきれません。そんなアフリカの素晴らしさ、豊かさを、歌を通じてもっと伝えていきたい。これからもアフリカへのメッセージを込めた歌を作り、日本の皆さんに向けて歌い続けていきます。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索